

園だより 7月

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。
みえるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存在するからです。

コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章 18節

毎日30℃を超える日々が続いています。確か関東地方はまだ梅雨明けはしていないように思いますが……。連日の夏日に大人たちが閉口している暑さも子どもたちにとっては何のその！元気いっぱい！玉のような汗をかきながら夏を感じ、それぞれの遊びを楽しんで過ごした6月の日々でした。

今年度も保護者の皆様にお手伝いいただいて設置した大きなプールでプール遊びを存分に楽しむ子どもたち。プール周りの園庭に広がるおおきな水たまりで水遊びを楽しむ子どもたち。自分でイメージを膨らませ、黙々と制作を楽しむ子どもたち。お友だちと鬼ごっこなど集団遊びを楽しむ子どもたち。お部屋でごっこ遊びを楽しむ子どもたち。メネット文庫でゆっくりと絵本を楽しむ子どもたち。幼稚園内を散策し色んな虫（だんごむしや蝶の幼虫など）を見つけを楽しむ子どもたち。それぞれの場所でそれぞれの「やりたい」ことに夢中な様子に、一人ひとりが心と体を動かしそのときを充実したときとして過ごしていることに感謝でした。そんな、「遊び」に没入することで育まれる幼児期の成長に対する重要性を大切に思い、保育者たちは今に適した環境を細やかに整え、子どもたちが存分に想いを発揮しながら過ごすことを願っています。6月からは暑さ指数を場所ごとにこまめに測り、外遊びの環境を整え、状況に応じて子どもたちに声掛けをしています。事務所前には簡易のミストシャワーを設置しました。熱中症のリスクも高くなっていることから、子どもたちの水分補給は目視をしながら、個々の水分摂取に気を付けています。このように今必要な最良の配慮を心がけ、子どもたちが健やかに五感を働かせ、自らの今のときを楽しみ、すべての日々が育みのときとなることを大切に思い子どもたちと共に過ごしています。

私の大好きなレイチェル・カーソンさんの「センス・オブ・ワンダー」の中に、とっても素敵なことばがあります。保護者の皆様と共有させていただきたく思います。『子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまえに澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直観力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」を授けてほしいとたのむでしょう。この感性は、やがて大人になるとやってくる倦怠と幻滅、わたしたちが自然という力の源泉から遠ざかること、つまらない人工的なものに夢中になることなどに対する、かわらぬ解毒剤になるのです。』（上遠恵子訳）子どもたちには「センス・オブ・ワンダー」を持ち続け成長してほしいと願います。1学期最後の7月も豊かに過ごしてまいります。様々によりしく願いいたします。

園長 駿河 幸子